府立桃谷高等学校（ＣＳＩⅡ部）
校長　岩﨑　判二

平成 27 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

多部制単位制高校の意義をふまえ、生徒や保護者、地域等の期待に応える教育活動を常に研究しながら、進化する学校をめざす。

１　本校のあり方や方向性を検討しながら教育活動を推進し、生徒や保護者、地域等の期待に応える学校をめざす。
２　自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。
３　人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性（規範意識・ボランティア精神等）を身に付けた生徒を育て、誰もが安心して学べる学校をめざす。

２　中期的目標

１　本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

（１）　現状の分析と生徒・保護者等の期待の把握を行い、方向性を明確化して必要な取組を計画・実施する。
　ア　生徒の現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。
（２）　本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。
　※　府内 90%以上の公立中学校以上に本校の案内をする。
（３）　職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。
（４）　学校協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。
　※　保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成 24 年度 66%）を平成 27 年度には 75%にして維持する。
　※　地域との連携を深め、地域の事業所等での職場体験やインターンシップを実施する。

２　生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実

（１）　希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
　ア　桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を完成させて実践する。
　※　自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解等の向上（アウトカム指標で全項目プラス評価）
　※　進路未定率の減少（平成 25 年度と比較して５ポイント以上減少）
（２）　充実した学びなおしの環境をめざす。
　ア　多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、学校設定科目の増設や習熟度別編成を強化
　イ　希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実
　ウ　学習意欲の向上を図るため、学外の学習機関との連携や学習評価について研究する。
（３）生徒の授業評価や授業公開を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
　※　生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成 24 年度 41%）を 27 年度までに 65%以上にして維持させる。

３　生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

（１）　「総合的な学習の時間」や特別活動等で人権教育を充実
　ア　人権教育でフィールドワークやワークショップなどのメニューを開発する。
　イ　コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。
（２）　中退防止ＰＴを中心に、現状分析と生徒指導体制を確立する。
（３）　教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を確立する。
　ア　外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
（４）　生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。
　ア　生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの参加者を増やす環境づくりをめざす。
　※生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（平成 24 年度 36%）を平成 27 年度までに 60%以上にして維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成 27 年 11 月実施分］

結果・分析・課題等　＜共通項目：数値は肯定的な回答の割合を示す＞

	質　問　項　目	生徒	保護者	教職員
学校意識	桃谷高校に入学してよかった。	83%	95%	93%
	この学校には、生徒や保護者のニーズにあった特徴がある。	91%	96%	95%
学習指導	授業はわかりやすく楽しい。（心がけている）	75%	79%	100%
生徒指導	学校生活についての先生の指導は納得できる。	83%	84%	84%
教育相談	担任以外で保健室等、気軽に相談できる先生がいる。	63%	77%	74%
進路指導	学校では、将来の進路や生き方について考える機会がある。	81%	83%	65%
道徳教育	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。	75%	78%	81%
人権教育	学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。	75%	81%	
情報提供	学校は教育情報について、提供の努力をしている。		82%	

・対象者別の全体の肯定感は生徒（70%）保護者（77%）教職員（68%）であり生徒・保護者が７割を超えた。特に、上記共通項目では、生徒・保護者の多様なニーズに応えたユニバーサルデザインによる教育活動の実践が評価されていると捉えたい。また、教職員の進路指導・評価点検・家庭との連携・教育相談・道徳教育等の項目で昨年より 10 ポイント以上の評価があった。今年から開始した「ももだにプロジェクト」による取組が教職員の意識改革や組織力に反映されたものとして評価したい。生徒の学習指導については、アクティブラーニングの視点からも今後に向けた授業改善の検討が必要であると思われる。昨年に続き、学習環境の整備や改善については依然、課題が残った。

学校協議会からの意見

【第１回】平成 27 年６月 29 日
①各担任から生徒への指導内容や伝達事項にばらつきが無くなるように、総括担任の役割に期待する。
②授業見学月間について、教員間での授業見学は、互いの授業力を高める取組みとしてとても良い。
③大阪府下で実施している高校生活支援カードは、生徒に対して適切な指導計画を準備する上で重要である。また、中学校（前籍校）と連携する上で、その取扱いについてのルールづくりが必要となる。
【第２回】平成 27 年 11 月 26 日
①生徒向け「アウトカム指標アンケート」の取組について、対象者の限定や継続性について、入学時と一年後の生徒の意識の変化について分析することが必要である。
②ＳＣの活用について、昨年の倍以上の利用数や継続的なケース会議の状況を踏まえ、ＳＳＷとの連携も必要である。
【第３回】平成 28 年２月８日
①海外の事例から考えても、図書室の整備は生徒にとって「居場所づくり」の観点から重要であり継続して欲しい。
②生野区役所と連携した防災研修はとても良い。
③学校評価に関する報告方法について、資料作成に工夫や改善が見られとてもわかり易い。
④学校教育自己診断から浮かび上がった「教職員間の意思疎通の仕方について」は、合意形成の場を校内研修等を通じて設けることが望ましい。

府立桃谷高等学校（ＣＳＩⅡ部）

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１　本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開	（１）本校のあり方や方向性の明確化 （２）本校への理解を促進する広報活動の充実 （３）学校力向上のための職員研修の充実 ア　職員研修の系統的実施 イ　0JT とﾒﾝﾀｰ方式により相互の教員力を向上させる実践的研修の実施 ウ　参加型研修による実践力の向上 （４）地域連携の一層の推進	（１） ・本校が果たす役割を鮮明にしたアドミッションポリシーを作成して周知 （２） 真に本校を必要とする生徒・保護者に、本校の情報が適切に届くよう、文書案内・ＨＰ掲載・体験授業・個別相談などの検討と改善実施。 （３） ア・研修の系統的整理を行ない、本校が必要とする教員力を継続的に向上する仕組みをつくる ・研究会等の外部研修の積極的案内と参加 イ・初任者のメンターとして２年～４年目の教員を充てる本校独自のメンター制度を実施 ・２年目教員への学校運営を学ぶ研修を学校説明会と学校協議会を活用して 0JT で実施 ・初任→２年目→メンター→ミドルリーダー→リーダーと組織での役割を分類し、それぞれの実践力と組織力を 0JT により向上させる ウ・人権に関して、参加体験型を含めた研修を行実践力の向上を図る （４） ・地域等と連携した授業や総合学習等を一層推進する。 ・地域と連携した防災への取組みを推進する。	（１） ・アドミッションポリシーへの学校協議会での評価（「非常によい」との評価） （２） ・中学に文書案内（府内公立中学 100%の維持） ・ＨＰ更新回数前年度の２倍以上 ・体験授業への肯定的評価 （参加者の 80%以上） （３） ア・強化すべき教員力の分析と中期研修計画完成（10 月） ・外部研修への参加者数（10 人） イ・メンター制度への関係教員の満足度（肯定率 80%） ・２年目教員による学校広報プレゼン、学校協議会記録作成（完成度で評価） ・各役割での自己評価の向上（肯定率 80%） ウ・研修参加者による肯定的評価（80%） （４） ・地域等と連携した参加体験型学習の実施（１回(H26)→２回） ・地域と連携した防災研修（１回）	(1)・生徒・保護者のニーズを十分に踏まえた点で委員から高い評価を得た。（○） （２）・ＨＰ更新回数 41 回（１月末時点）となり、昨年の２倍を上回った。 ・体験授業参加者の肯定的評価は第１回 100%、第２回 96%で目標達成。（○） （３）職員研修の充実 ア・外部研修への参加者数は 12 名、目標達成。教職経験の少ない教員も積極的な参加が見られ、授業力や指導力の向上につながった。（○） イ・メンター研修（MMP）６回実施し、67％の教員から肯定的評価を得た。（△） ・学校説明会において、ブースでの説明を実施。学校協議会において、第１回の記録作成に従事し、違った角度から教育活動に対する委員の意見に接し、視野を広げることができた。（○） ウ・８月にハラスメント防止をテーマに研修を実施し、円滑な人間関係の在り方について、体験を通して理解を深めた。87%の教職員から肯定的評価を得た。（○） （４）地域連携の推進 ウ．後期にＮＧＯと連携した参加型のコリアタウンＦＷを教員と生徒に対して実施。生徒対象のＦＷ実施後のアンケートには多文化共生や異文化理解が深まったという感想が多く出された。また、教員からは指導に必要な基礎知識（歴史的背景、共生生活の様子、ヘイトスピーチへの指導など）の修得やＦＷを通じた実体験など、体験型研修に対する肯定的意見が多数あった。（○） ・８月には生野区役所と連携した防災研修を実施。学校教育自己診断（教員用）の「計画的な研修実施」の結果は、昨年の 66%から 74%に改善したが、防災に対する具体的な取組について検討課題も見えてきた。（○）

府立桃谷高等学校（ＣＳＩⅡ部）

２　生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実	（１）「学びのシステム」の構築 ア　キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築 イ　実社会に触れる学びの実践 （２）授業力の向上 ウ　「わかる授業」の視点による授業研究 エ　「確かな学力」を育成する授業の研究 オ　「基礎的・汎用的能力」を育成する授業の研究	（１） ア・桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の役割の確認及びコンピテンス(育成したい能力)・具体的取組みの設定。 ・コンピテンスに基づくアウトカム指標（自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像）の入学後の肯定率を昨年度より上昇させる。 ・進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス（進路担当者面談)」及び「キャリア・カウンセリング（担任面談)」の充実 イ・進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。 （２） ウ・「わかる授業」をテーマにした継続的授業研究。 ・授業見学月間年２回実施（６月，11 月） エ・教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。 オ・「基礎的・汎用的能力」を育成する授業をテーマに研究協議を実施。	（１） ア・各教科・分掌等においてコンピテンス・具体的取組等の作成（４月） ・アウトカム指標（自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像）の入学後の肯定率（75％(H26)を 77％に) ・進路希望未定者(12 月末)の減少（20％(H26)→15%以下) ・進路未定率の減少(28％(H26)→25％以下) イ・進路説明会の参加数の向上（5%増）及び生徒評価（肯定率 80%） （２） ウ・すべての教科で研究授業と研究協議の実施 ・見学感想票の提出 80％以上 エ・「確かな学力」の指導方法をまとめる（12 月） オ・研究協議の実施（６月）	（１）ア・各教科・分掌等で年度当初にコンピテンス・具体的取組を作成し、学校教育計画に掲載した。年度当初に作成したことで、目標の共通認識を持つことができた。(○) ・生徒向けアウトカム指標アンケートを２月に実施し、肯定率は 70％。(△) ・進路希望未定者 27 名で、未定率は 24,1％。(○) イ・進路説明会参加数は 3.4％増であった。(△) ・生徒評価の肯定率は 80％から 93％に大きく改善した。生徒のニーズと社会の動向等を的確に把握し、大学や専門学校・企業等と連携を深めながら取組をより充実させたい。(○) （２） ウ・６月と１月の授業見学月間において、ほぼすべての教科において研究授業・研究協議を実施した。(○) ・授業見学月間において、82％の教員が互いの授業を見ることにより授業改善に取り組んだ。(○) エ・「確かな学力」指導方法については、第２回授業アンケートの結果を受け、各教科で次年度に向けた目標設定を行い、職員会議で報告を行った。(○)

府立桃谷高等学校（ＣＳＩⅡ部）

３　生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立	（１）総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み （２）支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開 （３）社会性育成のための取組み ア　地域の教育資源の活用 イ　達成感の得られる自主活動の充実 ウ　居場所作りと安全･安心の向上	（１） ・人権学習プログラムを桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて、H27 新入生全クラスで系統的に実施。 （２） ・「高校生活支援カード」を活用した「個別の教育支援計画」の作成及び活用。 ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た、支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、学校独自で臨床心理士をＳＣとして招聘。教員組織も、教育相談担当を支援検討担当と別に設け充実を図る。 ・関係機関(司法･行政･福祉)等と連携した支援の実施 ・教育相談・支援教育推進のための研修実施 ・支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導。 （３） ア・地域等との交流を深め、地域人材の協力を得た授業や講演、職場体験などの充実を図る。 イ・生徒会・部活動・ボランティアなど自主活動の充実を図るための環境整備とアナウンス ウ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。	（１） ・人権学習プログラム実施後の生徒評価（肯定率 80%） （２） ・「個別の教育支援計画」の作成（必要生徒数） ・支援検討会議の実施(10 回) ・SC とのケース検討(20 回) ・関係機関を交えたケース会議等の実施（10 回以上の維持） ・教育相談・支援教育に関する研修の実施（２回の維持） ・指導に対する生徒の納得度（肯定率 85%） （３） ア・地域等の協力を得た教育活動の回数（10 回） イ・自主活動参加者の向上（部活動参加者５%増） ウ・地域人材の協力を得た図書館整備(20 回)	（１）人権学習の生徒評価 ・人権学習実施後のアンケートでは、人権に対する意識や学びの機会を肯定的に捉えた感想が多数あるなど、生徒の 82%から肯定的評価を得た。引き続き、学習プログラムの内容充実を図りたい。(○) （２）支援教育等の教育活動評価 ・８名の生徒に対して「個別の教育支援計画」を作成し支援を行った。丁寧な個別対応を継続的に行った結果、生徒の出席率が上がるとともに生活全般の精神的安定に繋がった。(◎) ・ＳＣ関係(20 回を通じ､延べ 64 人に実施)、支援検討会議実績（外部連携 10 回)、校内ケース会議（32 回)、教職員研修（２回実施）等の取組は目標をすべて達成。支援に関する教職員の学校教育自己診断結果は昨年の 68%から 74%に改善した。(○) ・規律指導に関する生徒の肯定率は 83%あり、昨年同様に 80%を上回った。(△) ・日々の登下校指導、巡回、授業入込み、家庭訪問等、丁寧な指導が評価されており、特別指導等の件数は 43 から 32 に減少した。(○) （３）ア.家庭科、福祉科の授業に年金事務所等８つの外部機関から講師を招聘、また､総合的な学習では JICA 等から出前講座を実施するなど､全 16 回外部と連携した教育活動を行った。(○) イ．学校教育自己診断における生徒会活動や部活動に関する診断結果は横ばいであったが、生徒会役員による積極的な取組が、文化祭への参加者の増加や部活動加入者の漸増に繋がった。(H26：64 人→H27：72 人)（○） ウ．校長マネジメントより地域人材を活用した図書館整備を 20 回行った。(○)